

# 「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 3 月 31 日

仕事の内容	観光ガイド養成講座			
担当部署・課長名	産業振興	課	観光	係 課長名 小川 泉

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。		施策番号	3 - 6	-
【施策名】 観光事業の推進		総合計画書 (ページ)	79	

予算名	款 7 商工費	項 1 商工費	目 3 観光費	事業 1 観光推進事業
-----	---------	---------	---------	-------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)
	観光ガイド養成講座受講希望者	→ 募集人数
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)
	受講者(講座修了者)が、東大和市観光ボランティアガイド登録制度(平成27年4月1日制定)を活用してもらい、来訪者に対しガイドが行えるようなボランティアガイドを育成する。	→ 受講者(講座修了者)
	③ そのために何をしましたか。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)
	今年度については新たなテーマを設定し、テーマに則した知識に精通した方の他、郷土史の研究者、狭山丘陵等の自然の知識に精通した方を講師(謝礼対応)とし、ワークショップ型の講座を実施した。講座参加者はボランティアガイドの方はもちろん、新たなテーマとした講座内容に興味がある方を含め新規の方も幅広く募集した。 講座修了後については、登録制度の案内や市内来訪者へガイドを実施している自主団体の紹介等、ボランティアガイドとして活動できるようサポートを行う。	→ 講座開催数

2 指標の推移		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標	
	対象指標	①の数値	人	30	30	30		
	成果指標	②の数値	人	23	21	14		
	目 標	②の目標値	%			47%		
		目標値設定の考え方	受講人数/応募人数×100(%)					
活動指標	③の数値	回	2	2	2			

3 経費	事業費(実績)		円	60,000	54,000	54,000	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	60,000	54,000	54,000	
		特定財源	円				
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.04	0.04	0.04	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	329,320	330,120	329,760	
	職員人件費(再任用)	円	0	0			
事業費+人件費		円	389,320	384,120	383,760		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。
	平成24年4月に組織改正が行われ、産業振興課商工係に観光事業を取り扱う部署が設置されたことに伴い、市内にある観光資源を整理するとともに、埋もれている観光資源の発掘や、新しい観光資源の開発を行うことが明確に示される形となった。また、観光施策を実施し市をPRすることで来訪者の拡充や市内回遊を誘発させる仕組みづくりも行われる。そういった市の動きに合わせ来訪者に対応するボランティアの育成を目的に開始した。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。
	平成24年より講座を開始し、平成26年度をもって基礎的な養成講座を終了したことを受け、ボランティアガイドの登録制度として平成27年4月1日付で『東大和市観光ボランティアガイド設置要綱』を制定した。そのため、今年度についての養成講座は、ガイドのスキルアップや、新規のボランティアガイドの育成をすることを目的に新たな分野をテーマにし、ボランティアガイドの方はもちろん、テーマに興味のある方、ガイドに興味のある方等幅広く参加者を募集した。

仕 事 の 内 容	観光ガイド養成講座			
担当部署・課長名	産業振興	課	観光	係 課長名 小川 泉

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	知識やガイドスキルが個人によりバラつきがあることや、ガイドツール(配布資料やマップなど)やガイドコースなどが整備・整理されていないことから、継続的に市と連携しながら魅力の発掘・発信を取り組んでいく。 市には類似した講座等が他にもあることから、それらと連携を図り、市において統合的な事業の進め方を望む声が寄せられている。			
6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。(複数回答可)			
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体： ) ⑦後援・場の提供 ⑧その他( )	
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点			
7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート「7 課題(2)」の内容 観光資源の中の歴史的・地域学的な知識の学習及び習得は推進できているが、特産品やグルメなど他のジャンルまでには至らず、今後は観光資源を大きく捉え、様々なジャンルをテーマとし継続する。また、養成講座の認知度の向上により受講者の増加と、様々なテーマを設定することで受講者の幅の拡大を図っていく。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 ・これまでの、観光資源の中の歴史的、地域学的な知識の学習及び習得の推進とは違った、新たなテーマを取り入れた講座を実施した。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題 ・近年、ボランティアガイド制度に登録していただける方が減少している。 ・テーマを変えて実施したが、毎年継続して参加いただける方もいる中で、市内で実施できる内容では限界もある。			
	(1)仕事の方向性(「7 課題(3)」)の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など ・講座修了者を中心にボランティアガイド登録制度の活用の促進や、自主活動団体として組織している団体(東大和観光ガイドの会等)と連携し、市の魅力の発信と来訪者への受入体制を構築する。 ・ボランティア組織の活躍の場の提供やスキルアップのサポート、企画イベントのPRなど、活動の後押しを実施する。 ・市外の観光地域から得られる知識や知見等も含めた、大きな視点でテーマを検討する。			
8 今後の方向性	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 ・観光ボランティアガイド登録制度の周知により、登録者の増加を図り、市とボランティアとの連携を強化し充実させる。 ・講座受講者以外で知識や意欲のある市民の掘り起こしを行い、観光ボランティアガイド登録者の増加を図る。 ・ボランティア組織そのもの及びその活動の周知、PR活動を行い、市内外に発信する。 ・知識習得の場として、ボランティアガイドの自己研鑽、意識向上のサポートを継続的に実施する。 ・市外を含めた観光地域での講座開催の調整を図る。			
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
	成果	成果を向上させる。		経費